

整理番号
128

事務事業評価表
令和6年度実施事業

部長	課長	係長	担当者

事業名	生涯学習推進事業（再掲）				担当課	生涯学習課
業務名	生涯学習講座（サポート）				担当係	生涯学習係
基本目標	3	未来を拓く人を育む教育・文化のまち			計画期間	令和6年度～令和8年度
施策項目	3	生涯学習			事業区分	直営
主な取組	1	学習関連情報の提供			—	—
予算科目	会計	款	項	目	大事業	
	1	10	5	1	生涯学習推進事業費	

目的と方針【PLAN】	市民一人ひとりが生涯にわたって自ら学び、その成果が本市のまちづくりに活かされる生涯学習社会の形成に向け、総合的な学習環境づくりを進めます。					
事業概要【PLAN】	全ての市民があらゆる機会、あらゆる場所を利用して自ら文化的教養を高められるような環境を醸成するため、各種講座、学級を開催するとともに、地域自治組織等が主催する生涯学習事業に対して支援を行います。市民の生涯学習に関する活動等を推進のため、地域で活躍している様々な人材を生涯学習ボランティアとして人材バンクに登録し、市民学習などで活躍するセンターを設置します。					
対象【PLAN】	市民	意図【PLAN】	市民自ら社会教育や生涯学習のできる環境を整え、自主的に生涯学習や社会教育に取り組むことができる。すべての自治組織で自主的に活動ができるようになる。			
意図の実現のために必要なこと【PLAN】	生涯学習指導員等の助言により市民自らが、地域に暮らす人々の自主的な学びにつながるよう、地域自治組織などの団体を支援する。					

事業費【D0】		年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
		単位	(実績)	(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0		
	都道府県支出金	千円	0	0	0	0		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	0	0	0	0		
	一般財源	千円	798	0	1,655	21,527		
	事業費合計	千円	798	883	1,655	21,527		

(1) 伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】

指標名	単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
支援組織数	件	実績値が目標値以上となること	目標値	15	16	17	18	19
			実績値	15	24			
			達成率	100.0%	100.0%			

(2) チェック項目による評価【CHECK】

	評価視点	評価の結果
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民ニーズについてどうか 社会的需要についてどうか 事務事業の優先度については高いものであるか 	<p>平成26年度公民館が交流館へ移行となり、各地区公民館で実施していた公民館事業が地域自治組織での自主的取り組みができるよう支援を行きた。</p> <p>人材バンク登録者の高齢化が進んでいる。また、ボランティア活動分野の拡充や登録者の増員を進める必要がある。</p>
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか 市民満足度についてはどうか 社会貢献度についてはどうか 	<p>生涯学習事業は、教育委員会主催（学習の場の提供）と地域自治組織等が主催する地域計画に基づく生涯学習事業に区分される。しかし、地域自治組織の「地域づくり計画書」の策定が進んでいないため地域自治組織主催の生涯学習事業に差が生じており地域自治組織における「地域づくり計画書」の策定が必要である。</p>
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 費用を抑える工夫は行ったか 時間を削減する工夫は行ったか 当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか 	<p>生涯学習指導員を各総合支所に配置して令和6年度が3年目となり、協働まちづくり課との連携が薄くなってきていることから、地域自治組織のサポートする地域づくり担当や集落支援員が担うことで業務削減になる。</p>

(3) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】

今後の方向性	維持	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など	自治組織で行っている自主的な取組に対する支援、連携はできているが、市で行う取組との違いについて整理を行い、それぞれの取組がより活きるよう調整を行っていく必要がある。
--------	----	-------------------------	--

整理番号
131

事務事業評価表
令和6年度実施事業

部長	課長	係長	担当者

事業名	通学合宿体験活動事業				担当課	生涯学習課
業務名	-				担当係	生涯学習係
基本目標	3	未来を拓く人を育む教育・文化のまち			計画期間	令和6年度～令和8年度
施策項目	3	生涯学習			事業区分	一部委託
主な取組	2	学習機会の充実支援			-	-
予算科目	会計	款	項	目	大事業	
	1	10	5	1	通学合宿体験活動費	

目的と方針【PLAN】
市民一人ひとりが生涯にわたって自ら学び、その成果が本市のまちづくりに活かされる生涯学習社会の形成に向け、総合的な学習環境づくりを進めます。

事業概要【PLAN】
「生きる力」を身につけ、社会に貢献する自立した人間を育成することを目指し、市内の小学5年生を対象とした通学合宿を行います。

対象【PLAN】	伊達市立小学校5年生に対し合宿体験を行う	意図【PLAN】	機会を提供し、自立心や自主性を育む事業
-----------------	----------------------	-----------------	---------------------

意図の実現のために必要なこと【PLAN】
登下校を含む簡易宿泊所での衣食住の日常生活を共同で送る

事業費【D0】		年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
		単位	(実績)	(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)
財源内訳	国庫支出金	千円	2,402	0	0	0		
	都道府県支出金	千円	0	0	0	6,015		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	400	282	0	446		
	一般財源	千円	3,193	1,896	8,486	2,065		
	事業費合計	千円	5,995	2,178	8,486	8,526		

(1) 伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】

指標名	単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
参加者数	人	実績値が目標値以上となること	目標値	364	416	362	386	350
			実績値	381	443			
			達成率	100.0%	100.0%			

(2) チェック項目による評価【CHECK】

	評価視点	評価の結果
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民ニーズについてどうか 社会的需要についてどうか 事務事業の優先度については高いものであるか 	95.1%の児童の参加を得られ、日常生活を共同で生活するということできたことはよかった。
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか 市民満足度についてはどうか 社会貢献度についてはどうか 	調理や洗濯などの生活に必要な体験を提供できたことが評価できる。また、JAさんをお願いして食育講座を実施し、伊達市の特産や旬の果物、野菜を知り、旬の物を食べることは体にいいことを知るきっかけになった。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 費用を抑える工夫は行ったか 時間を削減する工夫は行ったか 当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか 	県地域創生総合支援事業（サポート事業）補助申請中

(3) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】

今後の方向性	維持	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など	事業の目的は、登下校を含む簡易宿泊所での衣食住の日常生活を共同で送る機会を提供し、自立心や自主性を育むことを目的とし、持続可能な事業としていく。
--------	----	-------------------------	--

整理番号
132

事務事業評価表
令和6年度実施事業

部長	課長	係長	担当者

事業名	生涯学習推進事業（再掲）				担当課	生涯学習課
業務名	生涯学習講座				担当係	生涯学習係
基本目標	3	未来を拓く人を育む教育・文化のまち			計画期間	令和6年度～令和8年度
施策項目	3	生涯学習			事業区分	直営
主な取組	2	学習機会の充実支援			—	—
予算科目	会計	款	項	目	大事業	
	1	10	5	1	生涯学習推進事業費	

目的と方針【PLAN】	市民一人ひとりが生涯にわたって自ら学び、その成果が本市のまちづくりに活かされる生涯学習社会の形成に向け、総合的な学習環境づくりを進めます。					
事業概要【PLAN】	全ての市民があらゆる機会、あらゆる場所を利用して自ら文化的教養を高められるような環境を醸成するため、各種講座、学級を開催するとともに、地域自治組織等が主催する生涯学習事業に対して支援を行います。					
対象【PLAN】	市民	意図【PLAN】	市民自ら社会教育や生涯学習のできる環境を整え、自主的に生涯学習や社会教育に取り組むことができる。すべての市民が自主的に活動できるようになる。			
意図の実現のために必要なこと【PLAN】	生涯学習指導員等の助言により市民自らが、地域に暮らす人々の自主的な学びにつながるよう、生涯学習指導員が講座等を主催するとともに、地域自治組織などの団体を支援する。					

事業費【D0】		年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
		単位	(実績)	(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0		
	都道府県支出金	千円	0	0	0	0		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	0	0	0	0		
	一般財源	千円	798	883	1,655	21,527		
	事業費合計	千円	798	883	1,655	21,527		

(1) 伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】

指標名	単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
講座数	回	実績値が目標値以上となること	目標値	14	16	18	20	22
			実績値	11	12			
			達成率	78.6%	75.0%			

(2) チェック項目による評価【CHECK】

	評価視点	評価の結果
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民ニーズについてどうか 社会的需要についてどうか 事務事業の優先度については高いものであるか 	平成26年度公民館が交流館へ移行となり、各地区公民館で実施していた公民館事業が地域自治組織での自主的取り組みができるよう教育委員会が主催の高齢者講座、女性講座、成人講座を実施し支援を行っている。
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか 市民満足度についてはどうか 社会貢献度についてはどうか 	講座に参加する人数は増加しており、地域コミュニティの一つとなっている。今後は講座参加者が自主的にサークル活動を行うことにより地域の活性化が期待できる。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 費用を抑える工夫は行ったか 時間を削減する工夫は行ったか 当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか 	市主催では各種団体の出前講座を利用し歳出の削減に取り組んでいる。

(3) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】

今後の方向性	維持	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など	地域毎に開催している教育委員会主催の各種講座は参加者や講座内容の固定化が課題である。全市民を対象としたカテゴリ別、年代や男女を問わない講座の開催の実施により課題解決の糸口となることが考えられる。
--------	----	-------------------------	---

整理番号
133

事務事業評価表
令和6年度実施事業

部長	課長	係長	担当者

事業名	図書資料購入事業				担当課	生涯学習課
業務名	-				担当係	図書館業務係
基本目標	3	未来を拓く人を育む教育・文化のまち			計画期間	令和6年度～令和8年度
施策項目	3	生涯学習			事業区分	直営
主な取組	3	図書館の充実と読書活動の促進			-	-
予算科目	会計	款	項	目	大事業	
	1	10	5	4	図書資料購入事業	

目的と方針【PLAN】	市民一人ひとりが生涯にわたって自ら学び、その成果が本市のまちづくりに活かされる生涯学習社会の形成に向け、総合的な学習環境づくりを進めます。					
事業概要【PLAN】	長期的な視点で利用状況を総合的に判断しながら、市立図書館及び各中央交流館図書室の図書（電子図書を含む）を購入します。					
対象【PLAN】	伊達市民（福島市民、伊達郡内各町村民）			意図【PLAN】	市民の教養と文化の振興を図り、豊かな心を育むため選書基準に沿った選書を行い、図書資料を購入し利用者に提供する。	
意図の実現のために必要なこと【PLAN】	図書館や電子図書館を利用し、知識や情報を得ることを目的とする利用者のため、また市民の読書活動を推進するために、伊達市立図書館資料収集方針及び選書基準に沿った選書を行いつつ、市民のニーズも考慮し、多くの方に利用してもらえる資料を購入する。					

事業費【D0】	年度	単位	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
			(実績)	(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0			
	都道府県支出金	千円	0	0	0			
	地方債	千円	0	0	0			
	その他	千円	0	0	0			
	一般財源	千円	4,854	5,333	5,509			
	事業費合計	千円	4,854	5,333	5,509			

(1) 伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】

指標名	単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
新規購入冊数 (紙図書)	冊	実績値が目標値以上となること	目標値	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300
			実績値	2,137	1,999			
			達成率	92.9%	86.9%			
新規購入冊数 (電子図書)	冊	実績値が目標値以上となること	目標値	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
			実績値	183	616			
			達成率	18.3%	61.6%			

	評価視点	評価の結果
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民ニーズについてどうか 社会的需要についてどうか 事務事業の優先度については高いものであるか 	<ul style="list-style-type: none"> 書籍、新聞、雑誌などの閲覧や借受に多くの利用者が図書館、図書室を利用しており紙図書資料のニーズがある。また、電子書籍は伊達市DX推進方針にある暮らしの向上、地域コミュニティの活性化にも付与し、来館困難者や高齢者、障がい者も利用できるコンテンツであることからニーズがある。 学びや教養のために金銭的負担なく図書資料を利用できるため、社会的需要がある。 年齢を問わず多くの方に利用される施設であり、蔵書の充実を図る必要があるため優先度が高い。
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか 市民満足度についてはどうか 社会貢献度についてはどうか 	<ul style="list-style-type: none"> 伊達市立図書館資料収集方針及び選書基準に沿った選書を行い、全ての年齢層に対応した図書資料を揃えることで総合的な学習環境づくりができる。 必要な資料を金銭的負担なく利用できることから、多くの利用者のニーズに応えられ蔵書の充実を図ることで市民満足度の向上につながる。 特に電子書籍は、来館困難者や高齢者、障がい者にも利用いただけるコンテンツであることから社会貢献度は高い。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 費用を抑える工夫は行ったか 時間を削減する工夫は行ったか 当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか 	<ul style="list-style-type: none"> 限りある予算で、多くの方にご利用いただけるように、市立図書館の本を交流館図書室に展示し、貸出す取り組みを行った。展示した本の半数以上が借りられており効果があった。また、寄贈図書を受入指針にそって、積極的に受け入れた。また、電子書籍については、予算を備品購入費から使用料に切り替えることで、多くの本が読めるレンタル型も併用し、ライセンス制限のない読み放題バックを選書する工夫を行った。

(3) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】

今後の方向性	統合	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など	限られた財源で多くの方に満足いただけるような工夫に取り組んでいる。物価の高騰に伴い図書資料代も高くなって来ているため、令和7年度は雑誌の購入を減らすこととしたが、利用者からの不満の声も多く上がっている。物価高騰から、無料で利用できる図書館の利用増が見込まれることから、今以上の蔵書の充実を図る必要がある。
--------	----	-------------------------	--

整理番号
134

事務事業評価表
令和6年度実施事業

部長	課長	係長	担当者

事業名	図書館運営事業			担当課	生涯学習課
業務名	-			担当係	図書館業務係
基本目標	3	未来を拓く人を育む教育・文化のまち		計画期間	令和6年度 ~ 令和8年度
施策項目	3	生涯学習		事業区分	一部委託
主な取組	3	図書館の充実と読書活動の促進		-	-
予算科目	会計	款	項	大事業	
	1	10	5	図書館運営事業	

目的と方針【PLAN】
市民一人ひとりが生涯にわたって自ら学び、その成果が本市のまちづくりに活かされる生涯学習社会の形成に向け、総合的な学習環境づくりを進めます。

事業概要【PLAN】
市立図書館および保原中央交流館図書室において、市民に利用しやすい図書館を目指した運営を図ります。

対象【PLAN】	①図書資料を借りる利用者：伊達市民、福島市民、伊達郡各町民 ②施設利用者、閲覧者：すべての利用者	意図【PLAN】	市民の教養と文化の振興を図り、豊かな心を育むため、市立図書館及び中央交流館図書室の運営を行う。
-----------------	---	-----------------	---

意図の実現のために必要なこと【PLAN】
選書や図書の装備、登録など専門的な知識が必要な業務のため、司書を2名配置し、蔵書の充実を図る。利用者が開館中いつでも必要なサービスを受けられるよう、レファレンスや本の分類等の専門知識を持った事業者窓口業務を委託し、サービスの向上を図る。

事業費【D0】		年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
		単位	(実績)	(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0		
	都道府県支出金	千円	0	0	0	0		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	0	0	0	0		
	一般財源	千円	20,431	20,340	29,531	43,932		
	事業費合計	千円	20,431	20,340	29,531	43,932		

(1) 伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】

指標名	単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
図書館利用登録者数	人	実績値が目標値以上となること	目標値	20,150	20,908	21,666	22,424	23,182
			実績値	24,168	20,022			
			達成率	100.0%	95.8%			

(2) チェック項目による評価【CHECK】

	評価視点	評価の結果
必要性	・市民ニーズについてどうか ・社会的需要についてどうか ・事務事業の優先度については高いものであるか	・年間約44,000の方が図書館や交流館図書室を利用しておりニーズがある。 ・金銭的負担がない、学びや教養の場として社会的に需要があり、必要なものである。 ・恒常的に利用され、利用者の年齢を選ばない施設であることから優先度が高い。
有効性	・施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか ・市民満足度についてはどうか ・社会貢献度についてはどうか	・図書館利用登録者に継続して利用いただける取り組みを行うことで多くの方に利用いただいた。 ・図書資料の充実を図り的確なレファレンスサービスを行った。また、各イベントでは、引き続き開催してほしいとの声も聞かれ、市民満足度は安定的に維持できている。 ・生後4か月の子どもから、高齢者まで、幅広い利用者を対象にした取り組みを行っており社会貢献度も一定程度維持できている。
効率性	・費用を抑える工夫は行ったか ・時間を削減する工夫は行ったか ・当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか	・他の係やボランティアの協力を得ることで、費用の掛からないイベントを多数企画・運営し多くの方に利用された。 ・司書を2名にし、読書推進コーディネーターを1名減したことで、専門業務を担うものが増え、選書の質も向上し、超過勤務が減った。

(3) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】

今後の方向性	拡充	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など	専門的知識を持つ司書や委託事業者とともに、質の高いサービスの提供を行っている。物価の高騰などの社会状況から、無料で資料の閲覧や借受ができ、冷暖房の整っている図書館は、資料利用者だけでなく、学習室やブラウジングコーナーも含めた施設も多くの人に利用されている。年齢、地域を問わず多くの方に利用される施設のため、専門的知識を持つ司書や、委託事業者によるサービスの提供を継続して行う必要がある。
--------	----	-------------------------	---